

8月5日(水)

京都大学農学部学生をP F・雷別に案内

8月5日(水)、京都大学農学部食料・環境経済学科2回生4名、教職員4名がP F（パイロットフォレスト）及び雷別国有林を訪れました。この実習は、「世界遺産と森林・林業 - 人と自然の新しい関係を探る - 」と題して、4泊5日の日程で知床・阿寒・釧路湿原など道東の自然を見学・調査するものです。

実習3日目のこの日は、高性能林業機械を取り入れた作業システムによる間伐実施箇所、森林造成53年目を迎えたパイロットフォレスト、雷別地区自然再生事業地、の3箇所を1日かけて案内しました。

高性能林業機械の作業現場では、各機械の働きや作業の流れについて実施企業体から説明を受け、作業を見学しました。学生たちは企業体ならではの作業システムの工夫を学んでいました。パイロットフォレストでは、造成当時の困難克服、森林造成に伴う地域への貢献、今後の働きなど、林業自体が社会に果たしてきた役割を感じたと思います。雷別地区自然再生事業地では、ボランティアを取り込んだ森林の復元など新たな課題について触れることができたと思います。

（自然再生指導官
国井）



雷別地区自然再生事業地



ハーベスタによる伐倒作業



ハーベスタによる玉切り作業



フォワーダによる運搬作業



グラップルによるフォワーダへの積込作業